

1 学校経営ビジョン

五訓や創設のことばの実現に向けて ① 6年間の一貫教育を活かした学校のカリキュラム、寮教育を通して確かな学力と自主性・自立性・協調性等のある生徒の育成を図る。 ② 生徒一人ひとりの夢や希望を実現するための進路指導体制を構築する。 ③ 常に学び続けながら教科の専門性を高め、チャレンジする教師集団づくりを行う。 ④ 感動と感性の教育を基盤に、豊かな人間性と社会性を育成する。 ⑤ 安心安全な学校・寮づくりを推進する。
--

2 重点目標と主な達成手段

1 確かな学力を身につけた生徒の育成 a 基礎学力（知識・技能の習得）の定着 b 思考・判断・表現の育成を目指した授業実践 c 主体的に学習に取り組む態度の育成 2 自主性・自立性・協調性のある生徒の育成 a 6年間の教育課程や全寮制の生活体験を通じた自己教育力の育成 b 異学年集団等を活用した社会性・人間性の育成 c 自尊感情や規範意識の醸成 3 生徒の進路実現に向けた取組 a 進学実績の向上にも繋がる、中・長期的進路指導体制の構築 4 学び続ける教師集団とOJT a 学ぶ意欲を喚起し、高い学力を目指す授業の工夫改善、授業改革 b 自己研鑽への取組（研修への積極的な参加等） 5 安全・安心な学校・寮 a 教師の情報共有化とリスク管理の意識向上 b カウンセリングマインドを持った生徒指導 c 命を大切にす教育の推進
--

3 重点目標と主な達成手段の評価

【本年度の各取組と成果の欄を記述し、その次の評価欄にA～Dを記入する。】

※ A：目標達成 B：達成状況が70%以上 C：50%以上 D：50%未満

1 確かな学力の育成を身につけた生徒の育成		達成手段にかかわる取組と成果		評価
達成手段				
a 基礎学力(知識・技能の習得)の定着	【①前期生レベルアップ指導】(教務) 本人の希望と各教科での検討をもとに、レベルアップ対象生徒を選出した。教科の担当者によって、放課後を活用しながら、個別指導を実施した。成績が上がったことで、学習意欲が高まった生徒が見られた。部活動の時間や五ヶ瀬検定との兼ね合い、教職員の負担等が課題である。複数の教科で補充学習を行うことが望ましい生徒もおり、時間の確保が必要である。		B	B
	【②後期生温習指導】(教務) 定期テスト4.5点未満の生徒を対象に、今年度についてはテストの3週間前に期間を延ばして実施した。教科担任や寮教育部にも協力をいただき、学習時間の見守りをしていただいた。結果前年度比でどの学年においても対象者が減少した。指導期間中に、教科担任に2回は指導を受けるように促したが、温習指導対象科目が複数教科に渡る生徒もいたため、徹底ができなかった部分もあった。		B	
	【③長期休業課題への取組指導】(教務) 前期では、前期生集会で教務部からの話として、休暇での学習の仕方や生活習慣の重要性について話を行った。長期休暇明けは、学年職員や寮職員の協力を得ながら、課題が完了するまで、図書室や教室等で学習させることができた。後期においても、各学年団の先生方や寮教育部の協力を得て、提出に関しては昨年度以上にこまめに指導できた。		B	
	【④生徒の学力把握と学力向上】(進路) 全職員での学力検討会を実施したことにより、本校生徒の学力の実態や学力到達目標等についての分析・検討を行い、共通理解を図る取組ができた。学力向上に関しては、日々の授業で習得した知識や技能等をさらに強化できるよう、土曜講座、夏・冬・春季課外、放課後課外、冬季学習会などを実施した。さらなる学力向上のために、主体的な学びができるよう講座制を導入するなど、魅力ある課外・土曜講座を企画していく必要がある。		B	

	<p><b>【⑤寮学習指導の充実】（寮教育）</b> 各学年担当ハウスマスターが学年における寮学習のあり方を模索してきた。6年生を中心に寮学習への意識は向上してきているが、まだまだ完全ではない。また、教務部と連携して後期生の温習指導生に対する学習会も実施することができた。寮の学習委員会によるテスト対策学習会や学習定着週間など、寮生たちの自主的な取り組みも活発になってきている。また、毎週木曜日に行っている教養講座も多くの先生方の協力のもと、充実した取り組みになっている。</p>	B	
	<p><b>【⑥定期テストに取り組む意識の向上】（前期）</b> 教務と連携して、前期生集会で定期テスト7割未満の生徒ゼロを周知徹底させたが、前期生全体でみると、定期Ⅰ（19%）定期Ⅱ（55%）定期Ⅲ（16%）定期Ⅳ（17%）の生徒が7割いかなかった。特に1年生の約4分の1が7割未満であり、低学力の生徒がほぼ固定化されてきている。</p>	B	
b 思考・判断・表現の育成を目指した授業実践	<p><b>【①SGH中間発表会の充実】（研究）</b> SGH指定3年目を受け、SGH中間発表会を行った。3,4年生のグローバルシンポジウムIN五ヶ瀬を地元の五ヶ瀬中学3年生と行い、基調講演では早稲田大学の藤井教授に来ていただいた。他学年もグローバルフォレストピア学習の一日研修を行っており、外部からもリクルートキャリアガイダンス編集部、青森県立田名部高等学校、福井県立若狭高等学校、宮崎県立延岡星雲高等学校から見学者に来ていただき、アンケートではよい評価をいただいた。</p>	A	A
c 主体的に学習に取り組む態度の育成	<p><b>【①「学習の心得」による指導】（教務）</b> 年度当初に前期生に対し、授業を受ける心構えや、挨拶の仕方について指導を行った。また、常に啓発ができるように、出席簿の裏に「学習の心得」のシートを付けるなどを行った。年度当初に集会での話は行ったが、徹底まではできなかった。1年間継続して徹底できるように、委員会等に協力をお願いすることや2学期始めの集会などで定期的に伝える必要性を感じた。</p>	C	
	<p><b>【②各教科の課題に対する取組指導】（前期）</b> ・日々課題は、教科担任の個別指導や放課後の居残り指導等で取り組んでいる。ただ、課題忘れの生徒が固定化してきている。 ・夏休み課題は、今回各教科で1日1時間程度のを準備していただいたが、それでも未提出者が1年45%、2年26%、3年7%という状況であった。冬休み課題は、夏に比較するとどの学年も提出率がアップしたが、いずれも居残り指導を強化し、特に気になる生徒には保護者への連絡も行った。</p>	B	B
	<p><b>【③GT（五ヶ瀬タイム）の実施と効果的な指導】（後期）</b> 6年生では、年間を通して、一生懸命取り組むことができた。毎日、少しの時間でも取り組んだ方が効果のある、リスニングなどの時間に充てるなどして効果を上げることができた。また、4年生では、「主体的な学び」をテーマに中期的に形式を変えて実施することができた。</p>	A	
<b>2 自主性・自立性・協調性のある生徒の育成</b>			
a 6年間の教育課程や全寮制の生活体験を通じた自己教育力の育成	<p><b>【①教育課程の編成】（教務）</b> 昨年度作成した教育課程表（A表、C表）をもとに教科代表者会、教科会を中心に話し合いを行った。大きな変更はないが、各教科からいくつかの要望があった。しかし、協議する時間がなく、来年度に持ち越すことになった。2学期からでは時間が足りないことから、1学期から編成を行うことが必要である。</p>	A	
	<p><b>【②教育課程説明会】（教務）</b> 担当校務分掌、教科・科目から、生徒・保護者に対し、説明を行っていた。説明会後の相談については、学級担任、進路指導部、関係教科科目の先生方で個別に対応していただいた。</p>	A	
	<p><b>【③授業時間の確保】（教務）</b> 曜日変更を行ったり、特編授業を設けることで、年間授業時数の均等化を図った。来年度から、定期テストの回数が減ることになったため、授業数が多少であるが増加することになる。</p>	A	
	<p><b>【④学校行事の質の向上】（生指）</b> 生徒に運営を任せる行事に対し、職員がサポートをしつつ、目標を達成できるように導く形で実行できている。生徒自身も成長を実感できる行事が多くあり、年を重ねる度に内容が充実した行事にしていきたい。</p>	A	

	<p><b>【⑤保健管理・指導による心身の疾病予防】（環境）</b>          日常の健康観察・寮保健日誌をもとに、学年団の先生方と養護教諭の連携をスムーズにすすめることができている。マスター先生方・寮職員の協力のもと、寮の生徒の体調を管理する体制が整えられた。インフルエンザ流行時に検温を義務づけてもらえた関係で、健康状態の把握や対応に努めることができた。</p>	A	
	<p><b>【⑥年間を見通した読書計画の推進】（情報）</b>          今年度は、図書委員による取り組みも継続しつつ、ここ数年の懸案事項であった、220Booksの内容見直しにも取り組んでいる。</p>	A	
	<p><b>【⑦寮における自律的な生活習慣の確立】（寮教育）</b>          今年度は、寮生一人ひとりが「余裕を持った寮生活」を送るように様々な場面で意識付けを行ってきた。しかし、前期生を中心に寮生活の未熟さが目立った。寮生一人ひとりが、自分たちの生活の場であるこだま寮について、主体的に考える環境づくりをしていきたい。</p>	B	A
	<p><b>【⑧前期課程との連携による指導体制の構築】（後期）</b>          後期担任会において、前期担任会の情報を共有することができたが、情報共有だけに終わってしまった。次年度の前期（3年）から後期（4年）への引き継ぎをしっかりとしたい。また、学年リーダー会を開催するなど、学年を超えて6年間を通した生徒育成のビジョンを協議する必要がある。前期・後期だけでなく、前期・中期・後期としての連携・取り組みが重要ではないか。</p>	B	
b 異学年 集団等を 活用した 社会性・ 人間性の 育成	<p><b>【①ホームステイの活性化】（生指）</b>          今年度は、年3回（2年・3年・5年対象）のホームステイ、年2回（1年・4年）の農村民泊を実施した。ホームステイの受け入れ世帯数が47世帯であったが、2回・3回と受け入れてくださる家庭もあったため、実受入数は、38世帯であった。昨年度が34世帯であったため、4世帯の増加につながった。</p>	A	
	<p><b>【②給食指導等による食習慣・マナーの習得】（環境）</b>          手洗い・ハンカチチェックや食事のマナー・偏食指導など前期の先生方中心に積極的に取り組んでもらっている。まだまだ、継続してマナー指導等は行っていないといけない。また、厨房体験を実施することで、厨房職員の苦労や工夫を感じ、感謝の気持ちを持つことができた。</p>	B	
	<p><b>【③美化委員会の活性化による勤労意欲の高揚】（環境）</b>          日頃より各清掃場所担当の先生方から、清掃時間開始の意識をもたせたり、清掃の仕方を指導していただき、状況改善を図って清掃への責任感を持たせることができた。美化委員で清掃の取組の点検を行い、意識の向上を図った。花壇の整備に関しては、環境保健部としては不十分であった。</p>	B	B
	<p><b>【④ファミリー制度・委員会活動の充実】（寮教育）</b>          ファミリーでの活動は例年通りであった。委員会活動について、5年生を中心に年々活性化が図れている。今後は、生活班単位での委員会活動が活性化するような取り組みを行っていく必要がある。</p>	B	
	<p><b>【⑤前期生のリーダーシップ・主体性等の育成】（前期）</b>          前期生としてのリーダーシップを発揮する場として、また生徒主体の活動の場としての生徒会集会を実施することはできた。ただ、当初計画していた「前期生総会」がインフルエンザの影響で実施できなかった。</p>	B	
c 自尊感情 や規範 意識の醸 成	<p><b>【①規範意識の醸成と生活習慣の確立】（生指）</b>          学校や寮で守るべきルールやマナーが守られていない面も一部見受けられ、集団の一員であるという規範意識をもっと高めていく必要がある。また、規範意識の低下が招く身勝手な言動が、相手を傷つけてしまったり、いじめにつながる行為となる等、自分たちで主体的に考えて行動できていない面もうかがえる。学級や各種委員会の働きかけや呼びかけ等、生徒が主体的に活動する場面を増やしながらか、学校や寮のルールを守っていくといった規範意識の向上に努めていく必要がある。</p>	B	
	<p><b>【②寮則違反の減少・よりよい人間関係の構築】（寮教育）</b>          持ち込み禁止品やパソコン室の利用など、集団生活における基礎となる秩序を守る意識が低い寮生が目立った。ペナルティなどを与えられたことで初めて気づく寮生が多かった。また、1年生を中心に人間関係の悩みが多かったが、これに関しては当然起こり得ることとして、教師集団で対応すべきである。また、異学年の人間関係について、先輩がしっかりと後輩を指導する場面があまり見られなかった。</p>	C	B

	<p><b>【③前期生の規範意識の醸成・生活習慣の確立】（前期）</b> ある程度、落ち着いた生活ができるようになってきたものの、集団の一員であるという規範意識が十分備わっていない場面も見られ、学校や寮で守るべきルールやマナーが守られていない面も見受けられた。また、規範意識の低下が招く身勝手な言動が、相手を傷つけてしまったり、いじめにつながる行為となる等、自分たちで主体的に考えて行動できていない面もうかがえた。その都度、学年を中心に生活指導や面談を行い、自分の行動を見直すといった対応をした。</p>	B	
	<p><b>【④後期生の規範意識の確立・チームによる生徒対応】（後期）</b> 特別指導や問題行動等の対応が、各学年で協力してできた。</p>	B	
<b>3 生徒の進路実現に向けた取組</b>			
a 進学実績の向上にも繋がる、中・長期的進路の構築	<p><b>【①社会・学問研究等について学ぶ場の設定】（進路）</b> 進路講演会や人生講座、マナー講座などの外部講師を招いての企画に加え、土曜講座での視聴覚教材を用いた学習、全職員によるプラスワン面談など、様々な生き方や職業、学問の世界に生徒が触れる機会を設けることができた。</p>	B	B
	<p><b>【②健全な職業観の醸成】（進路）</b> 職業インタビュー(1年)、職場体験学習(2年)を実施し、働くことの意味や意義について考えさせることができた。</p>	B	
	<p><b>【③進路指導に関する職員の共通理解】（進路）</b> 職員研修では、本校の目指す学力像について、全職員で考える機会を設けることができたことで、6年間を見据えた進路指導体制を構築していくうえでの、一つの指針を見出す契機とすることができた。</p>	C	
	<p><b>【④6年間を見通したGF学習プログラムの完成】（研究）</b> 毎週月曜日に定期的に行われているグローバルフォレストピア検討委員会で各コースの担当者から意見を吸い上げたり、場所やパソコンの配置、次期の検討等を行い、ほぼ来年度以降は変更の無いプログラムが完成した。</p>	A	
	<p><b>【⑤後期生の進路意識の高揚】（後期）</b> 学年目標を掲示することによって学年の共通理解ができた。4年生は、学習会を実施したり、6年生による進路学習を計画するなど取り組みをした。後期生集会等で、進路の話をしたり、LHRに6年生が出向き、先輩の話や先輩の話を聞くなど進路意識を高めるような工夫をした。また、温習生指導では、学習へ取り組む意欲を喚起できるように呼びかけを行った。</p>	B	
<b>4 学び続ける教師集団とOJT</b>			
a 学ぶ意欲を喚起し、高い学力を目指す授業改善、授業改革	<p><b>【①授業参観週間・授業の工夫改善】（教務）</b> 今年度は月曜日から土曜日まで実施し、合計6日間の実施になった。生徒・職員共に6日間連続となるため、負担が多いという意見があった。来校者の増減も大きな変化がなく、生徒・職員の負担も大きかったため、来年度は平日実施の予定である。</p>	B	B
	<p><b>【②テスト作成による指導力向上】（進路）</b> 校内実力テストを年2回実施し、今年度からは学力到達度を設定したうえで問題作成を行ったことで、今まで以上に大学入試問題研究の充実を図ることができた。また、トップセミナー・グレードアップセミナーの参観、問題作成力向上セミナーなどへの職員の参加を促した。</p>	B	
	<p><b>【③GF学習の成果を踏まえた授業改善】（研究）</b> ディベートやディスカッション、論文やポスター、プレゼンテーションなど自己表現の方法等を授業の中で英語や国語で取り上げていただき、スタディツアーやEnglish Discussionの場でその力を発揮できている。あとは、日々の授業とグローバルフォレストピア学習とを別物ではなく、つながっている物だという意識を生徒につけさせたり、今後の学習指導要領で出てくるアクティブラーニングで使用する手法そのものであるという認識を先生方にも提示することが出来れば更なる飛躍が期待される。</p>	B	
	<p><b>【④各教科の授業評価・GF学習の評価の工夫改善】（研究）</b> 12月中に授業評価を行うことが出来た。Global Competencyに関するアンケートの分析もデータが揃ってきたため、来年度以降できそうである。また、教員向けのアンケートも実施し全員に回答してもらい今の課題を共有することが出来た。今後はこのような評価やアンケートから客観的に振り返り先生方自身の授業構築に役に立てるような提案をしていきたい。</p>	B	
b 自己研鑽への取組（研修	<p><b>【①進路指導に係る先進校視察等の研修】（進路）</b> 先進校視察では、東京都の小石川中等教育学校・西高等学校への視察を実施し、系統的な進路指導体制の在り方等について学ぶことができた。ま</p>	A	

への積極的な参加等)	た、高大接続改革や新しい入試の在り方など、これからの進路指導に関する校外研修に積極的に参加することができた。 【②SGHに係る先進校視察等の研修】(研究) 国際バカロレアの先進校である札幌開成高等学校・中等教育学校を視察した。現在2期生が入学しており札幌市教育委員会が主導して行っている。基本的な考えは国際バカロレア(DP)は進学資格の一つであり、学校独自のIP(自ら学ぶ生徒の育成)が主である。本校でもTOK(知の理論)等を行っているので、いろんな教育手法を学び、本校に合う物を取捨選択しながら取り入れていきたい。	A	B
<b>5 安全・安心な学校・寮</b>			
a 教師の情報共有化とリスク管理の意識向上	<p>【①生徒の情報の共有化】(生指) 日々の寮日誌・マスター日誌等での共有を、年間通して行うことができた。寮職員との情報共有も積極的にできた。問題行動が発覚した際の、システム化を全職員が共有できるようにしていきたい。</p> <p>【②進路便りの発行】(進路) 「進路通信」を月1回発行し、本校の進路指導の取組や受験に関する情報、大学入試改革の情報などを、適宜提供することができた。進路に関する保護者からの問合せや、大学説明会への積極的な参加も見られ、一定の効果を上げることができた。</p> <p>【③防災意識の高揚】(環境) 年2回の防災訓練を実施した。第1回目の地震避難では授業中を想定した訓練、2回目の火災避難で時間を通知せず防火扉を閉めた状態での訓練を実施した。西臼杵地区消防の消防士から実践を交えた講話をしていただき、防災への意識がより一層高まった。</p> <p>【④行事における保護者との協力】(情報) 保護者の協力により、例年通りフォレストピア祭のPTA行事大盛況であった。来年度以降の地区懇談会についてももっと、学校側と保護者側の意見をよく照らし合わせて検討していきたい。</p> <p>【⑤保護者への情報提供】(情報) 定期的に、グローバルフォレストピア学習の様子等を投稿してもらっているが、もっと多くの情報を保護者側は求めているので、しっかりと呼びかけていきたい。また、学校だよりについても、教員側が更に要領がわかりやすくなるよう工夫していきたい。</p> <p>【⑥情報モラルの徹底】(情報) 今年度新しく生徒用と教師用のタブレットが導入されたこともあり、職員研修等で十分に情報モラルについて研修を積むことができた。また、生徒達の意識も高くなってきている。</p> <p>【⑦前期生の心身の変化への対応】(前期) 担任会や学年会等で気になる生徒の様子を伝え、共通理解している。必要な時は学年で面談を行いながら、保護者への連絡を含め対応した。また、「いじめアンケート」等をもとに、生徒の様子を迅速に把握し、生徒指導部と連携を取りながらの対応をした。</p> <p>【⑧学級通信等による情報提供】(前期) 「学級通信」や「前期生通信」をとおして、学校や前期生の様子を保護者に伝えることができた。</p>	B	B
b カウンセリングマインドを持った生徒指導	<p>【①気になる生徒の早期発見・指導・支援】(生指) 前期課程においては、年3回の学年職員による2者面談を実施し生徒理解に努めた。週に1回の教育相談委員会を定期的に開催し、情報の共有を図った。また、臨床心理士派遣事業を利用し、年間32時間の派遣をしていた。</p> <p>【②寮生の心身の変化への対応・保護者との連携】(寮教育) ハウスマスターが適宜、寮生たちへの声かけを行ってきた。寮生活や学校生活において心配な寮生について、ハウスマスターから保護者へ連絡をすることもあった。また、寮通信を毎月発行し、寮生活の様子や連絡を行ってきた。ホームページにも写真をアップすることも行った。</p> <p>【③面談・生活の記録による生徒への早期対応】(前期) 学年団を中心にした2者面談を年3回実施し、生徒理解に努めた。担任を中心に「生活のあゆみ」を活用し、生徒理解に努めた。気になる生徒には声かけや面談を行うなど早期の対応に心がけた。</p>	A	A

c 命を大切に する教育の 推進	【①L I F Eの授業による命を大切に する生徒の育成】（環境） 年2回の統一授業と事後研修会を 実施し、その都度、成果と課題を 明らかにすることができた。講師 を依頼しての授業や、各学年の 実態に応じた授業をしていただき、 それぞれに深めることができた。	A	
------------------------	--	---	--

学校関係者評価における総合評価	
<p>それぞれの重点目標において、おおむね目標が達成されており、高く評価できる。グローバルフォレストピア学習をはじめとして、特色ある教育プログラムが展開されており、今後も地域とのつながりを深めながら、教育活動のさらなる充実を図ってほしい。</p> <p>寮生活における生徒の心身のケアについては、きめ細かな対応がなされているが、特に1年生については、入学時の手厚い指導や支援が必要である。</p>	